

☆令和6年度全国高等学校総合体育大会  
カヌースプリント・カナディアンシングル  
200m 6位入賞 500m 6位入賞(森さん)

少年男子カヌースプリント・カヤックシングル  
200m 8位入賞 500m 4位入賞(吉田さん)  
少年女子カヌースプリント・カヤックペア  
200m・500m出場(谷村さん・谷本さん)



大洲高等学校 3年

写真左から

吉田	かいと	さん
谷村	あおい	さん
谷本	せな	さん
森	みず	稀さん

全国を舞台に活躍する大洲高校カヌー部ですが、今年はまず森さんがインターハイ入賞と好成績を残します。「楽しみながら持っている力を全部を出し切れた」という彼女に続けと、谷村さん・谷本さんペアと吉田さんが四国予選を突破して国民スポーツ大会に出場、そして吉田さんが入賞とそれぞれが結果を出しました。谷村さんと谷本さんは1年生の冬にペアを結成。「最初はうまくいかないことだらけだった。今は互いに信頼し、話し合いながら細かい調整ができるようになった」。また吉田さんは「腕を骨折するアクシデントに見舞われたが、その分走り込みを増やし体力をつけたことが入賞につながった」とカヌー部としての日々を振り返ります。2年生部員がいないこともあり、1年生の指導もこなしながら練習にいそしんだ3年生ですが「男女関係なく団結し目標に向かったチーム」とキャプテンの谷村さんは部員全員でつかんだ成績だと強調します。

4人にカヌーの魅力について尋ねると「水上で自分と向き合うことで、心も体も成長させてくれるスポーツ。小さな子供たちもぜひ、この肱川でカヌーにチャレンジしてほしい」と未来のカヌー部員へ向けてメッセージを贈ってくれました。

## HighSchool NOW

～市内5校の高校生によるリレーエッセイ～

## Vol.93 帝京第五高等学校

私たちは、帝京第五高校チアリーディング部「BLUE STARS」です。

今年度から新設され、現在は部員2人で活動しています。「BLUE STARS」というチーム名は、スクールカラーである青と、(帝京第五の5にちなんで)5つの点をつなぎ合わせると星ができることから名付けられています。

私達のチームの目標は「がんばる人を応援し、応援される人になる」です。普段はダンスやスタuntsと言われる組体操、タンブリングなどを行っています。

7月14日(日)に岡山県で開催された中四国チアリーディング選手権大会で、エキシビジョンマッチ部門に出場し、奨励賞を頂くことができました。

今後は、3月にある西日本大会に出場することを目標に、学校行事だけでなく、地域を盛り上げる活動をしていきます。



帝京祭で全校生徒に技を披露



ある日の練習風景

— 一回は大洲高等学校からです。 —

## 2年連続で世界へ！

ロボットの製作とプログラミング技術を競う世界大会「World Robot Olympiad (WRO)」に2年連続で出場する八幡浜工業高校3年の帽子明輝さん（新谷中出身）と山下統真さんが9月27日(金)に市役所を訪れました。2人は世界大会に向けて「昨年はおと一歩のところまでトラブルに見舞われメダルを逃してしまった。今回は必ず優勝して日本に帰ってきたい」と抱負を語りました。世界大会は11月28日(木)からトルコ共和国のイズミルで開催されます。



世界大会に出場する帽子さん（右）と山下さん（左）

## 地域の要 新しい父橋が開通！

肱川の堤防整備に伴い、愛媛県が架け替え工事を行っていた菅田町の父橋が開通し、9月28日(土)に県と市の共催で記念行事を行いました。

新しい父橋は、越水対策のため旧橋より4～5m高く造られたほか、車道の幅を2m広げ、新たに歩道も設けられました。また、工事車両の通行が可能となる頑丈な造りとなっています。菅田自治会の小川陽一会長は、「菅田にある宇津橋、逆なげ橋と合わせて3つの架け橋を足掛かりとして地域を活性化していきたい」とあいさつしました。



## 学校に動物園がやってきた

10月1日(火)、久米小学校で移動動物園が開催されました。移動動物園は、生き物の習性や生態を理解し、命の尊さを認識してもらおうと県立とべ動物園が実施しています。この日やってきたのはウサギやモルモットなど4種類の動物たちで、1・2年生の児童40人が心音を聴診器で聴いたり、クイズなどで動物について学びました。子供は「心臓がとても速く動いていたのでびっくり」「思っていたより重かった」と動物とのふれあいを楽しんでいました。



## 令和6年度 大洲市合同追悼式

大洲市戦没者・消防及び公務殉職者合同追悼式を10月1日(火)、総合福祉センターで開催しました。戦没者や消防殉職者の遺族など88人が参列し、献花を行いました。

遺族代表あいさつでは、愛媛県遺族会大洲市支部副支部長の矢野郁子さんが「終戦から79年がたちました。戦争という悲劇を二度と繰り返さないよう、英霊の犠牲のもとに築かれた平和の大切さを後世に伝えていくという遺族の使命を胸に刻み、果たしていきたい」と思いを語りました。



きりめき

ニュース

シリーズ

お知らせ

情報ひろば

図書館

未来を拓く

健康ナビ

相談・救急



## ツール・ド・ひじかわ2024

肱川沿いの道を愉しむサイクリングイベント「ツール・ド・ひじかわ2024」が10月13日(日)に開催されました。この日、スタート地点の畑の前河川敷には市内外からサイクリング愛好家約150人が集結。グループに分かれ秋の大洲市内を駆け抜けました。スタート前の参加者に話を聞くと「会社の同僚4人で参加した。各休憩所で地元の名産品などを味わえるのがうれしい。今年は天気がいいので風景も楽しみながら走りたい」とイベントの魅力を話してくれました。



## 来て!見て!知って!買って!大洲産業フェスタ

市内の企業や製品の魅力を広く知ってもらうためのイベント「第14回大洲産業フェスタ2024」を10月14日(月・祝)に開催しました。市内事業所や学校、官公庁など48のブースが出展し、大洲のええモン・うまいモンや事業などをPRしました。

例年以上の人出と盛り上がりを見せた今回の産業フェスタには、愛媛プロレスからデカボマンや石鎚山太郎も駆けつけ、子供たちとの交流や脱炭素の取り組みについてのPRを行いました。



## 米づくりを通して仲間を増やそう

大洲市公式関係人口プラットフォーム「大洲カンパニー」の活動の一環として、10月15日(火)、肱川町の元耕作放棄地で自然農法を用いて作られた酒米の収穫作業が行われ、市内外から15人が参加しました。米作りに携わるメンバーによると、今後は収穫された酒米でオリジナルの日本酒を製造して販路を築き、耕作放棄地で米作りをする人をはじめ市の関係人口の増加を目指しているということです。



大洲カンパニーの  
詳細はこちら



## 科学体験フェスティバル

10月19日(土)、第26回科学体験フェスティバルin大洲を開催しました。メイン会場の国立大洲青少年交流の家では、楽しみながら学べる19の体験ブースを市内外の学校や団体などが出展。サブ会場の長高水族館では海の生き物とのふれあい体験を行い、合わせて1,765人が訪れました。

参加者からは「マイナス200℃で冷やしたバラの花を手でつぶすと、シャクシャクしておもしろかった」といった声が聞かれました。

## ざぶとんを探しながら

長浜高校が地域活性化の取り組みとして行っている「ざぶとん水族館」を活用したウォークラリーイベントが10月19日(土)に行われました。長浜地区の店舗や施設に置かれている、海の生物がデザインされた手作りのざぶとんを探しながら地域を知ってもらおうというこのイベントは、SNSから送られてくるヒントや指示を元にミッションをクリアしていくという生徒のアイデアが盛り込まれていて、大人も子供も一緒に楽しみながら散策していました。



## 肱川クリーンフェスタに助っ人参上

肱川の清掃活動と海洋ゴミなどについての学びのイベント「肱川クリーンフェスタ」を10月19日(土)に実施しました。肱川緑地公園に集まった多くの人の中には愛媛プロレスのレスラー3人の姿もあり、不法投棄された自転車を楽々と担いで運び出すなど、他の参加者と共に汗を流しました。また、会場では海洋ゴミに関するクイズラリーやワークショップに加えてアトラクションも行われ、参加者は海洋ゴミ問題について楽しく学んでいました。



清掃活動に参加した さんたろう  
イマバリタオール・マスクラス、デカボマン、石鎚山太郎の3人(左から)

## 30周年を迎えた風博でマルシェ

風の博物館開館30周年を記念して、10月20日(日)に「風の博物館マルシェ」が開催され、市内外から約800人が詰めかけました。

館内ではさまざまな手作り雑貨などが並ぶマルシェのほか、肱川中学校総合文化部やミュージシャンの演奏も行われ、来場者は音楽に耳を傾けながらも買い物や出展者との会話を楽しんでいました。

また、敷地内にはキッチンカーが並び、秋晴れの空の下、食欲の秋を満喫する人でにぎわいました。



## えひめYOSAKOI祭り2024

10月20日(日)、20周年を迎えたえひめYOSAKOI祭り2024が開催され、本場高知から愛知県まで県内外の23チームが、きらびやかな衣装を身にまとい、鳴子を両手に舞い踊りました。

肱北緑地公園のメインステージのほか本町や中町などの商店街、アクトピア大洲前でも練り踊りが披露されました。沿道では地域住民のみなさんも各チームの個性豊かな演舞に声援を送り、踊る側も見る側も笑顔があふれる祭りでした。



## 【しいたけのツナマヨ焼き】



## 材料（4人分）

シイタケ	12個
ツナ缶	2缶
マヨネーズ	大さじ3
しょうゆ	小さじ1
ピザ用チーズ	40g
ネギ	適量

## 作り方

- ① シイタケの軸を取る。
- ② ツナ缶は汁気を切ってボウルに入れ、マヨネーズとしょうゆを加えて混ぜる。
- ③ シイタケの笠に②を詰めるように塗り、アルミホイルを敷いた天板に並べ、チーズをのせる。
- ④ 180℃に予熱したオーブンで約10分、焼き色がつくまで焼き、小口切りにしたネギをのせる。

大洲市食育キャラクター  
しいたけお

## シイタケの栄養

キノコの中でも食物繊維が特に多く、腸内環境を整えたり、血糖値の上昇を抑制したりする働きがあります。また、シイタケは日に干すことでビタミンDが豊富に生成されます。ビタミンDは、カルシウムの吸収を高める働きがあり、骨粗しょう症予防に効果があります。



【レシピ提供：健康増進課】

CDO補佐官 鈴木邦和くにかず 第23回

## DXのすゝめ



近年、DXと共に「GX」という言葉も耳にするようになりました。GXとは、温室効果ガスを発生させる化石燃料をできるだけ使わず、クリーンなエネルギーを活用していくための変革やその実現に向けた活動を指します。DXとGXはそれぞれ独立した概念ですが、実は密接に関係しています。

例えば、フランスを拠点とするタイヤメーカー「ミシュラン」は、トラックの燃料消費を削減するためのサービスを提供しています。同社はトラックのタイヤをリースし、車内に取り付けられた装置を使用して、燃料消費量や速度、タイヤの空気圧などのデータを収集します。クラウドに日々蓄積されるそれらのデータを専門家が分析し、顧客に対して燃費の改善策やタイヤ交換のタイミング、最適な運転の仕方をアドバイスすることで、顧客は平均100kmあたり2.5リットルの燃料消費量の削減することに成功しました。

これはDXの事例でもあり、GXの事例でもあります。両者は「社会や生活をより良い形に変えていく」という共通項があり、持続可能な未来を構築するために不可欠な考え方ですので、ぜひ今後みなさんに注目していただければと思います。

## 文化財

豊茂のサザンカ  
市指定天然記念物  
個人所有



この木は、豊茂コミュニティセンター（旧豊茂小学校）裏手の丘陵状地形の頂部付近にあります。樹高は約9mで、樹齢は約150年と推定されています。枝張りは約9mに及び、均整の取れた樹相が大きな特徴です。晩秋に八重の白い花をつけますが、樹冠全体に花を付けるため、花期は特に目立ち、豊茂地区のシンボルの一つとなっています。

愛媛県出身で、植物学者・牧野富太郎にも師事した八木繁一（1893-1980）によれば、自生のサザンカは肱川が北限とされます。この木はその代表的事例であり、サザンカの生態を知る上でも重要といえます。

(平成13年11月1日指定)

# 肱川と ともに

Vol.6



「一級河川肱川」は、人々に多くの恵みを与える一方で、幾度もの氾濫を繰り返し、水害に見舞われる地域としても知られることになりました。先人たちが行ってきた「治水」に対する取り組みを含め2回に分けてご紹介します。

## 治水の取り組み



肱川のナゲ（渡場）

洪水時の水流を川の中心部に導き、土砂を沈殿させる働きがある



肱川河川激甚災害対策特別緊急事業

過去に発生した大規模な洪水としては、昭和18年7月24日低気圧・前線による大雨（田畑浸水1,876町、住家浸水7,477戸）から平成30年7月7日西日本豪雨（浸水面積1,372ha、住家被害2,886棟、事業所被災1,037事業所）まで22回の大きな洪水があります。

肱川の水害から身を守るため、昭和19年から本格的な築堤工事などが開始され、昭和35年に鹿野川ダム、昭和57年に野村ダムが建設されるなど、治水機能の向上が図られました。

平成に入ると、より中長期的な視点で治水対策を進めるために「肱川水系河川整備計画」が策定され、計画に基づき鹿野川ダム改造事業（トンネル洪水吐）や肱川河川激甚災害対策特別緊急事業（堤防整備など）が実施され、肱川流域で治水機能の強化や高上げが行われました。

今後も、肱川流域全体のバランスに配慮しながら河川整備を実施するとともに、野村ダム改良事業や山鳥坂ダム建設事業など、国・県・市が一体となって流域住民の安全で安心な生活環境の確保のための治水機能強化が図られます。

## 流域治水で 水から 自ら 守ろう(新たな取り組み)

### ▶流域治水とは？

近年の気候変動の影響により激甚化・頻発化する水災害に備え、これまでの行政が行う治水対策に加え、地域の企業や住民のみなさんの協力を得ながら、あらゆる関係者が一体となり水災害の防止・軽減に肱川流域全体で治水に取り組む考え方です。

### ▶水災害に備えて、できることから始めよう

今年度から、大雨時に雨水が河川や水路に流れる量を少しでも減らす目的で、雨水タンクや透水性舗装などの雨水貯留浸透施設の設置に必要な経費の一部を補助する「大洲市流域治水推進補助金」を始めました。

対象となる施設		補助割合	上限金額
雨水を貯める施設	雨水タンク※	設置経費の2/3	25,000円/基※
	転用浄化槽		200,000円/基
雨水を浸透させる施設	浸透ます		5,000円/基
	浸透側溝		3,500円/m
	浸透トレンチ		3,000円/m
	透水性舗装	1,000円/m <sup>2</sup>	

※タンクの大きさにより上限金額が変わります



愛媛県流域治水ロゴマーク



### 雨水タンク

雨水貯留タンクを設置することにより、雨水を貯留して一時的に雨水の流出を抑制する施設



ホームページ

来月号では、「流域治水」についてさらに詳しく紹介します。